

李 旖雪

LI Yixue



白蛇伝

紙本着彩

## 白蛇伝

中国の古典文学に、人と妖怪の物語を描いた『白蛇伝』や怪異短編集の『聊斎志異』がある。これらの物語には神様や妖怪などの現実には見えないものが登場する。『白蛇伝』では、白蛇が人間の姿に変身することができるが、その時代の伝統的な考え方のせいで、人間と妖怪は付き合うことはできない。白蛇とその恋人はそれぞれ自分自身に忠実であり続け、勇気と決意をもって彼ら自身のやりたいことをやり遂げる。それは私に全ての生き物が自分の望む生き方を選ぶ権利があることを教えてくれた。そうした点に魅力を感じ私は自分でその物語のイメージを描き始め、またそれを伝えるために、連続の画面、すなわち絵巻で表現することにした。この形式を用いることにより、時間の経過までを表現することができるようになる。

例えば、中国の宋代の画家たちは優れた絵巻を多く残している。また、日本には『源氏物語絵巻』のように文学を絵巻で表現したものがある。このような作品の場面表現の考え方から影響を受け、連続性のある場面を用いた表現の方向性を見出した。絵巻の魅力は、豊富な内容と多くの場面を収めることができる。もし、1つの画面に内容を収めようとすれば画面は窮屈になってしまうだろう。このことから、絵巻の形式ならば物語をより深く伝えることができると考えられる。しかし、この絵巻の形式は伝統的であるという印象が強く、表現技法では水墨画、着色、金箔の使用が多く、画面の構成は非常に厳密である。

私は絵巻の形式を用いているが、伝統的な表現に現代的な技法を組み合わせている。例えば、私が最も使っている技法は、キュビズムの画家たちも用いたパピエコレという技法で、画面に紙を貼りこみ、その素材は絵画の一部になる。私は伝統的な絵巻にはない豊かな質感を出すために、さまざまな質感を持つ和紙を使用している。また、伝統な絵巻の厳格な構図に比べ、私の構図はより自由である。

現代において、絵巻という形式を用いて物語やメッセージを表現することは、伝統の上に現代的な表現や技法を取り入れた斬新な方法であり、絵巻という表現形式に新たな息吹を与えるものだと思う。